

『新年の挨拶』

新年迎えまして、おめでとうございますを申し上げる前に、元旦早々、大きな地震に津波もきて、火事も広がり、またその救援のための飛行機事故。まずは被災された方々、亡くなられた方々に心よりお見舞い申し上げます。今年はコロナ禍があけて久しぶりの通常の新年合同例会になり、能登半島救援の指示などにもお忙しい中、石井登志郎西宮市長をお迎えしてここに皆で集えることに喜びを感じます。



昨年はWBC野球の快進撃から始まって、あれよあれよと言うまにタイガースが「アレ」を獲得し、ヴィッセル神戸も初優勝、といいニュースが次々とありました。その反動か今年は暗いニュースではじまってしまいました。でもその暗いニュースの中にも海外メディアで賞賛された JAL の脱出。一人の犠牲者もださずに367人の乗客が全員脱出できたことが取り上げられていました。日々の訓練と咄嗟の現場の判断。そしてパニックにならなかったことだということです。能登半島地震への支援もお正月期間にも関わらず、次々と非難所支援や医療支援、復興支援の手が差し伸べられているということです。日本人として誇らしいことだと思えます。

さて、今年辰年です。

映画「ネバーエンディングストーリー(1984年)」にでてくる白い龍、子供を背中に乗せて一緒に夢を叶えるためにとび回っているのを思い出します。いじめられていた子供に自信を持たせてくれる龍。知恵と勇気を与えてくれる動物として描かれていました。龍だけが実在しない生き物です。だから何でもありです。夢を持ってくる、幸せを持ってくる。平和を持ってくる。かと思えば、災いを持ってくる・・・私たちに都合のいいものを持ってきてもらいましょう。でもその前に、何を持ってきてもらいたいかは自分で考えておかなければなりません。

新しいロータリアンをさがしてきてくれるでしょうか。そして一緒に奉仕をしてもらいましょうか。皆様方にとって、今年の龍をどんな生き物にするかは皆様方次第です。すばらしい辰年にしていましょ